

# 戸山5号宿舎跡地発掘調査

2011年7月17日

川村 一之



# はじめに

- 1. 調査の目的とその結果
- 2. 調査地点
- 3. 調査経過
- 4. 元看護師証言の検証
- 5. 調査の評価
- 6. 今後の課題

# 1. 調査の目的とその結果

- 目的—旧陸軍軍医学校の跡地に埋められたとされる人骨(人体標本)の有無の確認。
- 結果—発掘調査の結果、該当地に人骨(人体標本)は埋められていなかったことが確認された。

## 2. 調査地点

- 陸軍軍医学校跡地(新宿区戸山)  
敷地面積 約57,074m<sup>2</sup>
- 防疫研究室跡地 約16,500m<sup>2</sup>
- 戸山5号宿舍跡地 約3,000m<sup>2</sup>



- 陸軍軍医学校
- 防疫研究室

- 東京航空写真地図  
1953年3月～4月撮影  
創元社



### 3. 調査経過

- 1989年 人骨発見
- 1998年 石井元看護師の証言
- 2001年 厚生労働省の調査報告
- 2006年 川崎厚労大臣と面会
- 2010年 発掘予算計上
- 2011年2月21日 発掘調査開始
- 2011年6月30日 発掘調査終了

# 試掘調査(1)

■ 2011年3月11日 撮影川村





# 試掘調査(2) ■ 2011年3月 厚生労働省提供



# 発掘見学会(1) ■ 2011年5月30日



# 発掘見学会(2)

■ 2011年5月30日



# 発掘見学会(3) ■ 2011年5月30日



# 発掘見学会(4) ■ 2011年5月30日



# 発掘見学会(5) ■ 2011年5月30日



# 発掘見学会(6)

■ 2011年5月30日



## 4. 元看護師証言の検証

- 人体標本が埋められた3カ所  
「見た」・「聞いた」・「手伝った」
- 今回の調査地点は庶務課長の松下菊松氏から「聞いた」
- 松下証言「標本を埋めた場所に官舎を建てて住んでいる。掘り返されると困るので引越しもできない。」





石井 十世  
いしい とよ

- 1922年6月17日生
- 1944年2月  
陸軍軍医学校
- 1945年12月  
国立東京第一病院
- 住所 戸山町54番地



松下 菊松  
まつした きくまつ

- 1941年3月  
医療局近畿出張所
- 1948年10月  
国立東京第一病院庶務課長
- 1956年3月 国立東京第一病院事務部長
- 住所 戸山町戸山ハイツ8号地第2住宅2

# 陸軍軍医学校 配置図(1)

- 人骨(人体標本)が埋められたとされる3カ所  
(2006年6月)

「見た」

「聞いた」

「手伝った」



## 陸軍軍医学校 配置図(2)



- 厚生労働省による石井元看護師の聞き取り資料
- 「標本は、今回発見された場所だけでなく他に何カ所かに埋めたと聞いている。」  
(2001年2月20日)



## 5. 調査の評価

- 国が人道的見地から、731部隊との関連が疑われる人体標本の発掘調査を行ったこと
- 人体標本は発見されなかったが、調査によって戸山公園造成の道筋が開けたこと
- 問題点 発見されなかったことによる費用対効果の批判

## 6. 今後の課題

- 石井元看護師が「手伝った」とされる第3地点の調査 財務省若松住宅
- 軍医学校時代の人体標本
- 89年に発見された人骨の身元確認

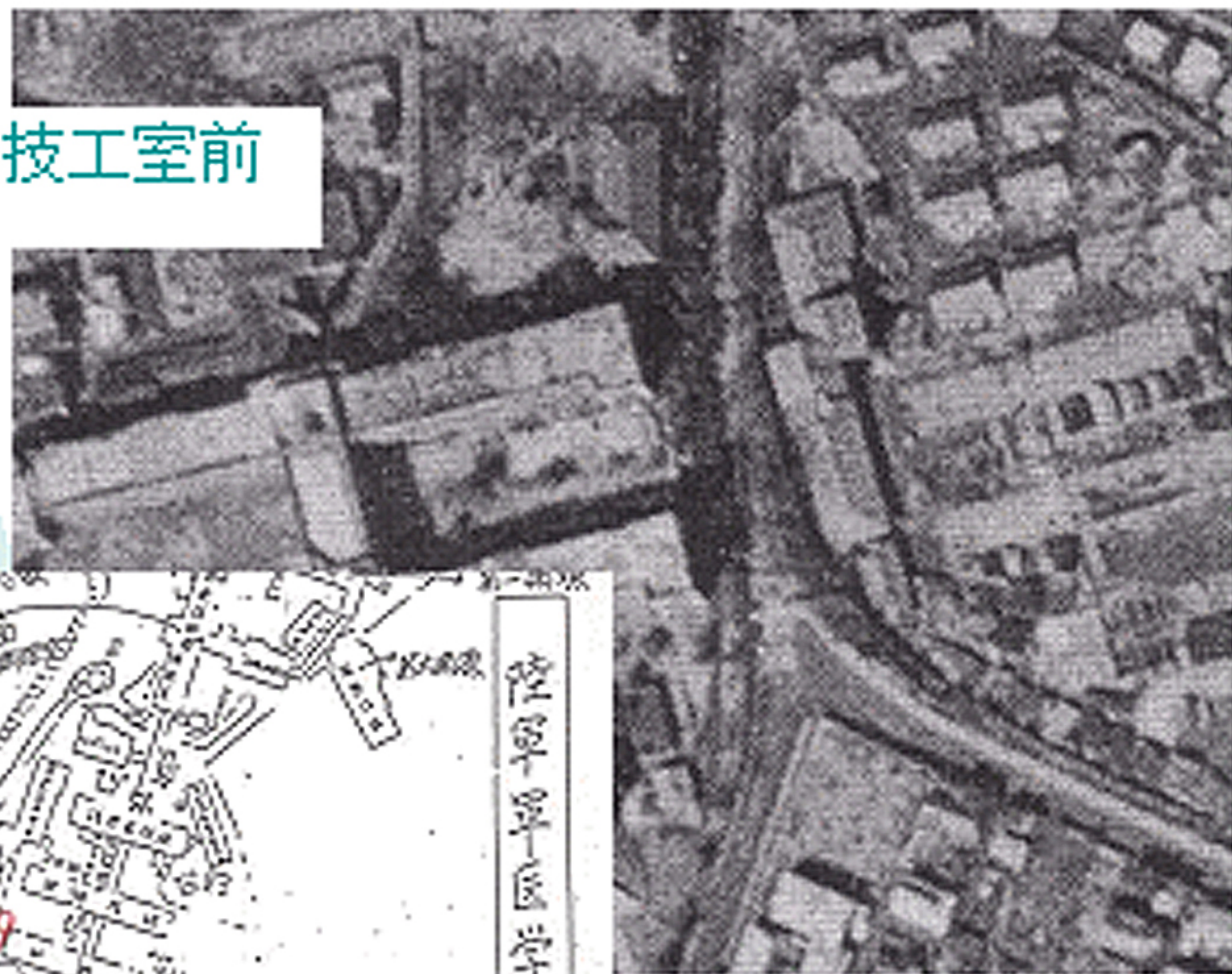
## 第3地点の石井証言

- 口腔外科の技工室の前 空襲で焼け残った陸軍軍医学校の建物に整形外科で使っていた建物がありました。戦後、国立東京第一病院になってから、その建物に産婦人科が入りました。私は東一病院になってから、産婦人科に移りましたので、その建物で仕事をしていました。その建物の南はしに口腔外科で使用していた技工室がありました。人体標本は技工室の前に穴を掘って埋めました。ガラス瓶から標本を取り出して埋めました。私が手伝いましたからよく覚えています。(2006年6月)

？ 入居者の退去後、何らかの調査を行うことを検討する



■ 口腔外科技工室前



## 平井正民軍医の講演

- 軍陣病理学に就きて 事変勃発の昭和12年7月11日より昭和15年7月10日に至る間全軍の解剖数は1886体にして、特殊研究班の218体を加算すると約2000余体に達す。其の3分の1なる700体は貯蔵せられ、10分の1に当る200体の材料は軍医学校に送付せられあり、尚公刊せられざるも研究報告に使用せられたる剖検数は約200体に上れり。— 第31回 日本病理学会総会(1941年4月8日)

? 一部を陸上自衛隊衛生学校「彰古館」で保管

## 人骨の身元確認

- 厚生労働省報告 事引き取った人骨については、これ以上の調査の実施は困難といわざるを得ないが、**新たな調査の手がかりが得られることもあり得ることから、現状のまま保管する。**(2001年6月14日)
  - 舛添厚労大臣答弁 今大切に保管されています人骨の身元確認、これはさらなる技術革新その他の手を用いまして、できるだけ**身元確認につながるような努力を今後とも続けていきたい**と思います。(2008年5月14日)
- ? DNA鑑定やスーパーインポーズ法など